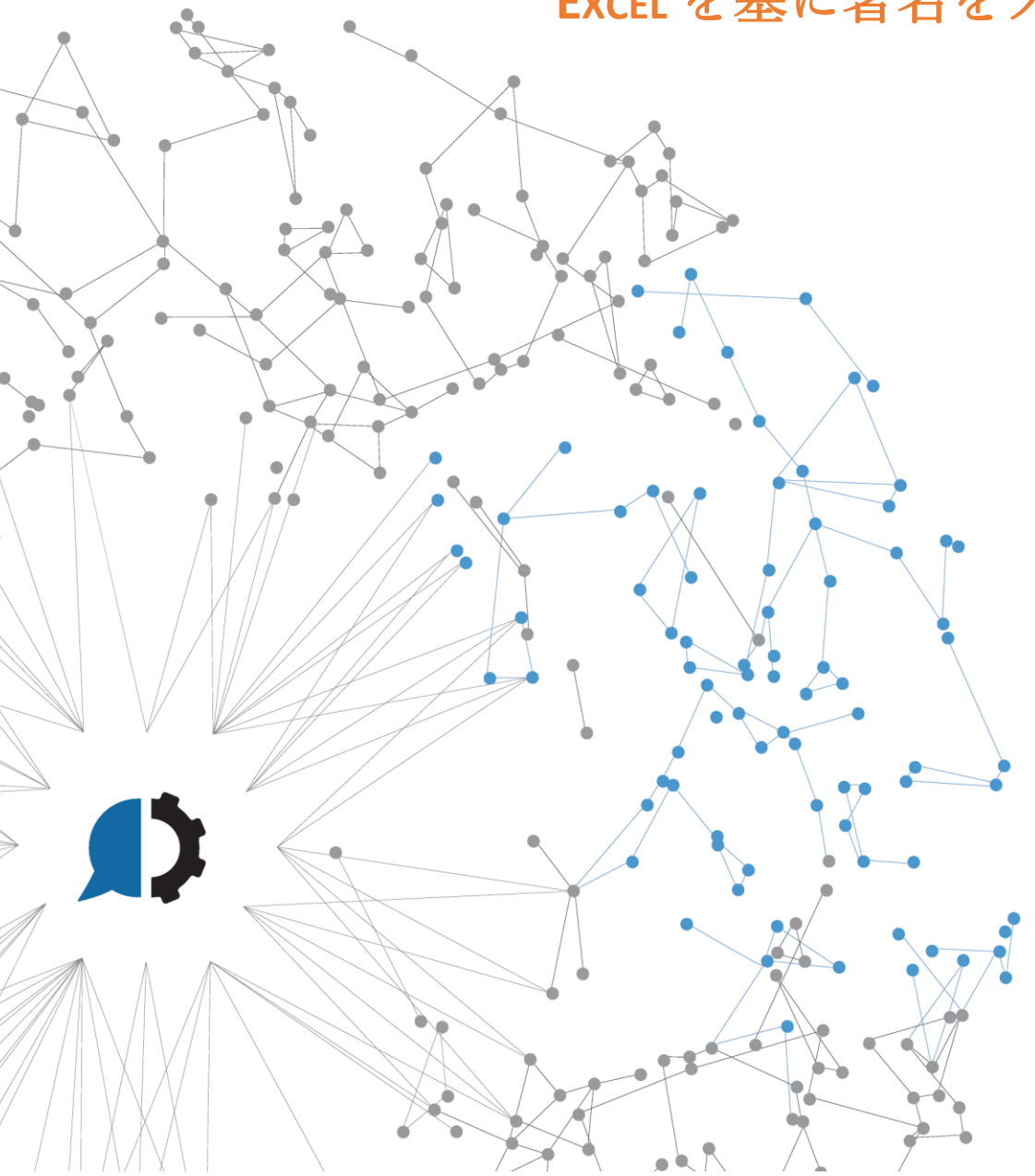
DocuSign Bot

Excel を基に署名をメールで依頼



目次

概要 3
必要条件 4
AutoMate タスクのインポート方法 6
入力ファイルの作成方法 7
「DocuSign - Excel を基に署名をメールで依頼」の実行方法 8
付録 A –結果を含む EXCEL ファイルと DOCUSIGN ENVELOPES ビューの結果 10
付録 B –ラブルシューティング 11

概要

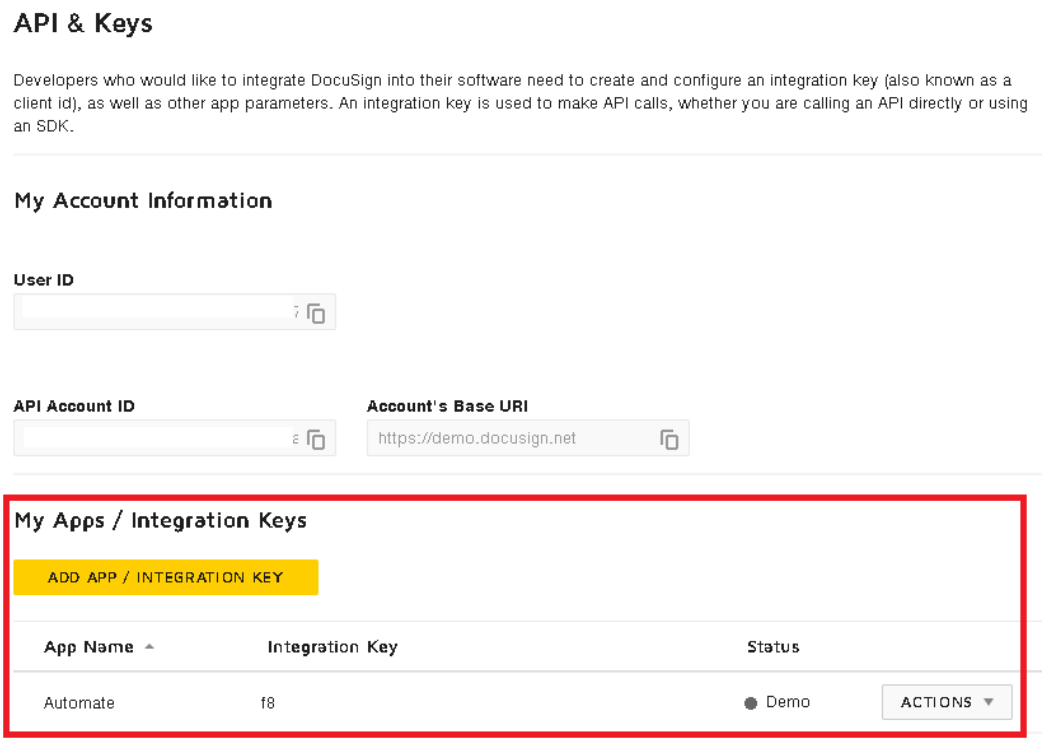
この How to ガイドでは、「DocuSign - Excel を基に署名をメールで依頼」をご紹介します。繰り返しの多い手作業に貴重な時間とリソースを費やす代わりに AutoMate に任せて、RPA による自動化で IT とビジネスプロセスを合理化しましょう。AutoMate の支援により、ボットが手作業を代行することで反復作業を大幅に減らし、作業の品質と一貫性を向上させることができます。自動化されている主なプロセスは、レポート作成、ファイル移動、データのインポートとエクスポート、バッチ処理のスケジューリングです。

「DocuSign - Excel を基に署名をメールで依頼」は、DocuSign eSignature REST API をベースにしています。Excel ファイルで提供されるデータを使って**「/accounts/ {accountId}/envelopes」HTTP POST** メソッドを実行し、DocuSign で署名するファイルが入った新しい封筒を作り、実行結果で更新するものです。署名依頼を受信者にメールで送信するか、封筒だけ作成して下書きとして保存するかは、自分で決めることができるようになります。このボットは、ユーザー名とパスワードの使用を避けるため、API トークンによる認証方式を採用しています。トークンは認証に使用したユーザーアカウントに関連付けられるので、署名リクエストを送信する必要があるユーザーアカウントごとにボットが必要になります。 詳細な情報は、「必要条件」と「入力ファイルの作成方法」をよく確認してください。

また、「DocuSign - トークンの生成と更新」があり、このボットが動作するための最初のトークン作成とリフレッシュのための簡単な方法を提供することになります。デフォルトでは、トークンは8時間後に失効します。このボットは OAuth Authorization Code Workflow をベースにしています。

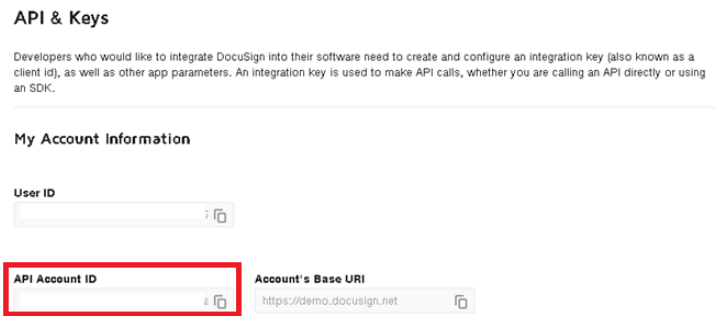
必要条件

- AutoMate: Adobe Sign ボットは動作に AutoMate を必要とします。最低限サポートされているバージョンが以下の通りです:
    - AutoMate Ultimate 11.2
    - AutoMate Plus 11.2
    - AutoMate Desktop 11.2
- AutoMate Markup Language file (.AML): DocuSign ボットタスクのステップを含む AutoMate で使用される主要なファイル形式
- DocuSign: 最低限必要なものは以下の通りです。
    - DocuSign eSignature で作成された統合のためのアプリケーション: トークン作成のための適切なスコープとリクエストを設定し、他の DocuSign Bots の接続に使用できるようにするには、DocuSign プラットフォーム内にアプリケーションを作成する必要があります。ADMIN エリア > INTEGRATIONS > API and Keys セクションで確認することができます。



管理者（DS Admin）である必要がありますので、権限がない場合は、DocuSign の管理者にご確認ください。アプリの作成方法の詳細については、こちらをご覧ください。

- ボット実行のための適切な権限スコープで生成された DocuSign トークン: アプリケーションが作成され、設定されると、接続用のトークンを生成できるようになります。このボットを動作させるには、次のスコープが必要です：「**signature**」と「**offline_acces**」**署名**スコープは、アカウント管理、作成、送信、一覧表示、封筒、テンプレート、その他のオブジェクトなど、eSignature REST API のメソッドに必要です。「**offline_acces**」は、オフラインでリクエストを実行できるようにするためのものです(bot に動作させる)。トークン生成のために選択できる OAuth ワークフローは様々ありますが、**DocuSign OAuth Authorization Code Workflow** をベースにした「**DocuSign - トークンの生成と更新**」も提供していますので、留意してください。また、このワークフローを詳細に説明するユーザーガイドもあります。
- DocuSign API アカウント ID: この ID は、お客様の DocuSign アカウント（Platform）に関連付けられたものです。ADMIN エリア > INTEGRATIONS > API and Keys セクションに移動して取得することができます:



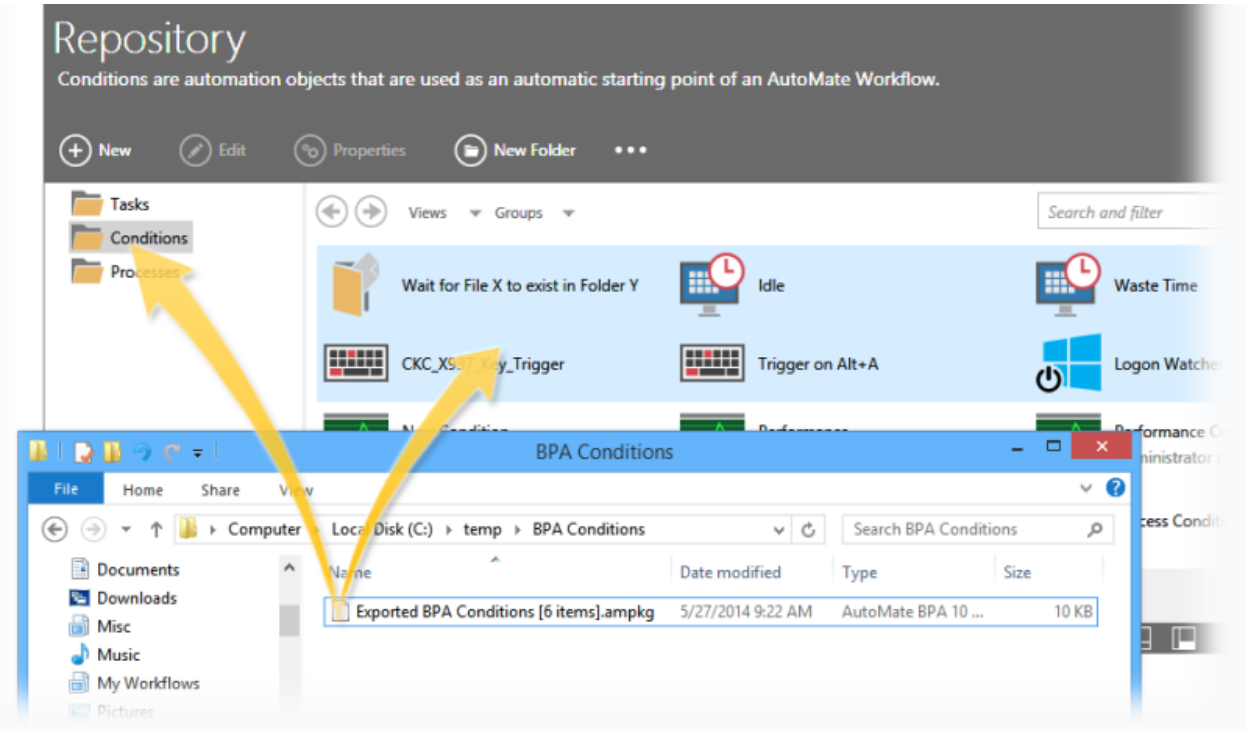
- DocuSign eSignature API バージョン: このボットは DocuSign eSignature API v2.1を使用して作成しています。
- DocuSign の接続値を設定するために作成された定数を自動化:
  - DocuSignURL 定数: お使いのプラットフォーム用の The DocuSign URL:
    - *デモ用プラットフォーム: https://demo.docusign.net*
    - *製品用プラットフォーム: https://{server}.docusign.net/*

AutoMate タスクのインポート方法

互換性のあるファイル形式は、ドラッグ&ドロップでレポジトリに取り込むことができます。

サーバー管理コンソールから[レポジトリ]セクションに移動します。

目的のファイルを元の場所からドラッグして、SMC 内のフォルダにドロップします。ファイルは、フォルダーアイコンまたはメインパネルにドロップすることができます（下図参照）。インポートされたオブジェクトは、自動的に対応するリポジトリの場所に配置されます。



入力ファイルの作成方法

この DocuSign ボットに同梱されている入力ファイル「DocuSign Bot - Request Single Document Signature by Email from Excel INPUT.xlsx」は、トランザクションのすべてのフィールドを自動的に補完するための自明なガイドを提供するものです。

入力ファイル

A	B	C	D	E	F
DocuSign Request Single Document Signature by Email fields					
Document Name Name and extension	**Documents Foder Path**	**Email Subject**	**Email Body Message**	**Recipients** Format: Recipient1 <Recipient1@domain.com>;Recipient2 <Recipient2@domain.com>	**Send Emal?** If Blank it will not be sent and the envelope will be created..

G	H	I
Create or Sent?	**Details**	
Yes/No	**Date**	**Envelope ID / Result Message**

注:

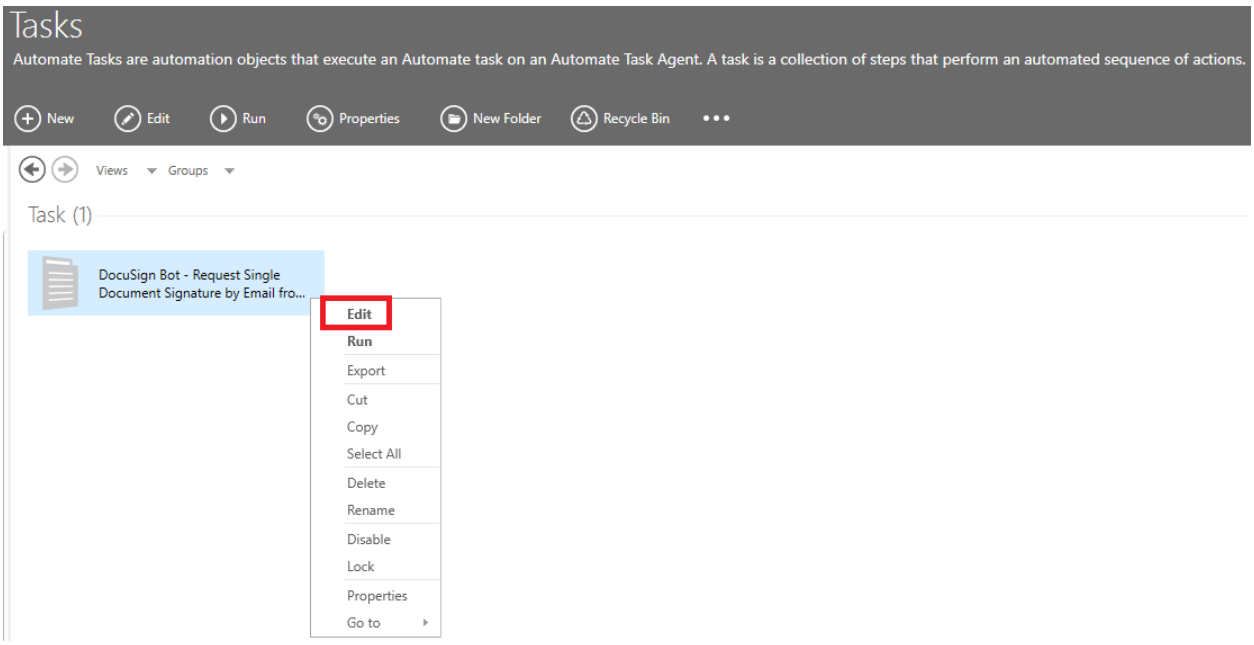
- すべての項目は必須です。
- フィールド内のコメントにも注目してください。
- **F 列**には、署名依頼メールを送信するのか、それとも封筒を下書きとして作成するだけなのかが表示されます。送信する場合は "X "を付けてください。
- **A 列**には文書名と拡張子、**B 列**には文書が保存されているフォルダーパスを設定します。これらは、DocuSIgn によって自動的に PDF ファイルに変換されます。
- 入力ファイルの **G 列から I 列**には、実行結果と Envelope ID、実行したアクション、作成時のステータスが記入されます。 結果に関する例は、付録 A を参照。

「DocuSign - Excel を基に署名をメールで依頼」の実行方法

このタスクを初めて実行する場合、いくつかのパラメータを設定する必要があります。

サーバー管理コンソールを開き、インポートしたタスクを探します。

インポートしたタスクを右クリックし、「編集」を選択して編集します



- ステップ2からは、次の変数をご希望の出力に合わせて編集してください。
- var_AccountID: ユーザーを関連付けるアカウント ID を設定します。ユーザーを管理するユーザーアカウントの ID となります
- var_ExcelInputFile: ユーザーを作成するための DocuSign Create Users 入力ファイルの場所パスと名前を設定します。例 C:\DocuSign Create Users INPUT.xlsx
- var_DocuSignToken: 接続用トークン（String）またはトークン情報のあるファイルのパスを設定します。トークンは、接続するアカウントに関連付けられることを忘れないでください。接続/リクエストを実行するための DocuSign トークン。トークンの値そのもの、またはトークン情報が格納された.txt ファイルがあるパスを設定します。

  例: ***C:\Automate\DocuSignToken.txt***

  .txt ファイルを使用する場合、トークンは次のような形式/構造でなければなりません:

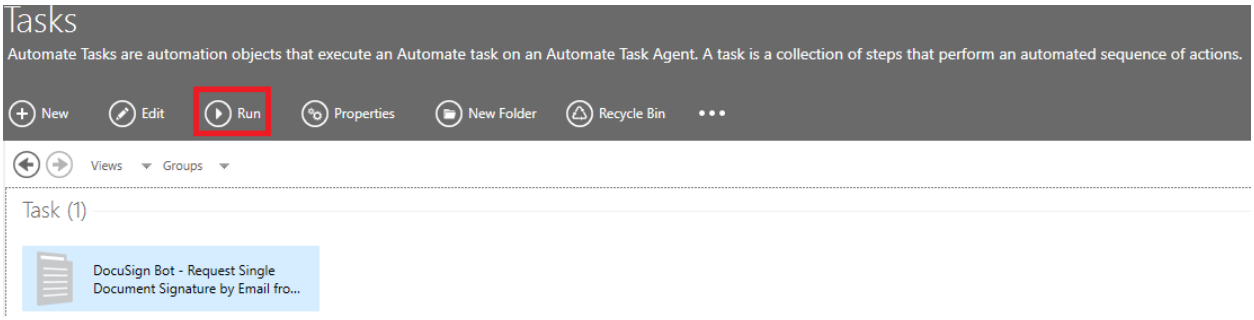
  access_token:TokenString

ファイルの例:

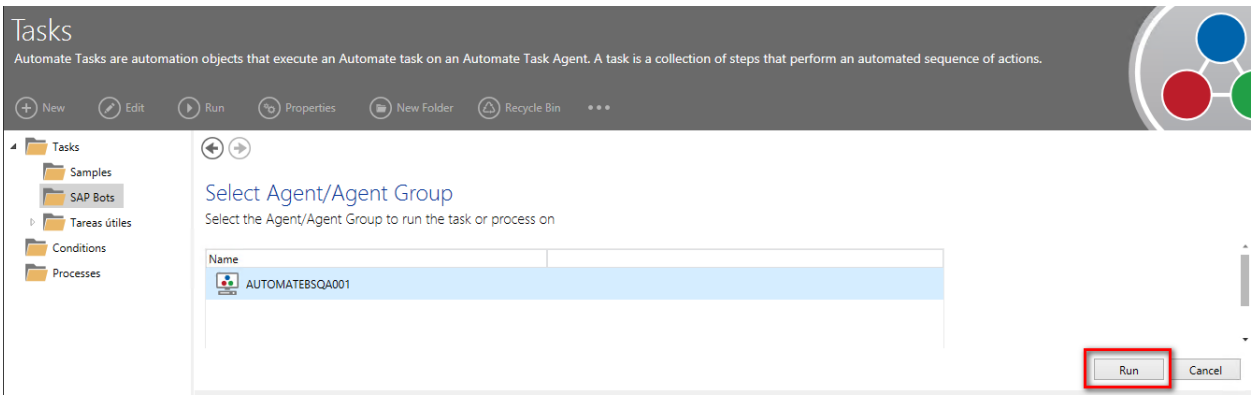
refresh_token の値があることに留意してください。これは「DocuSign - トークンの生成と更新」管理されます。

タスクを保存して閉じる

タスクを選択し、「実行」をクリック



エージェントを選択し、再度「実行」をクリックします。



付録 A –結果を含む EXCEL ファイルと DOCUSIGN ENVELOPES ビューの結果

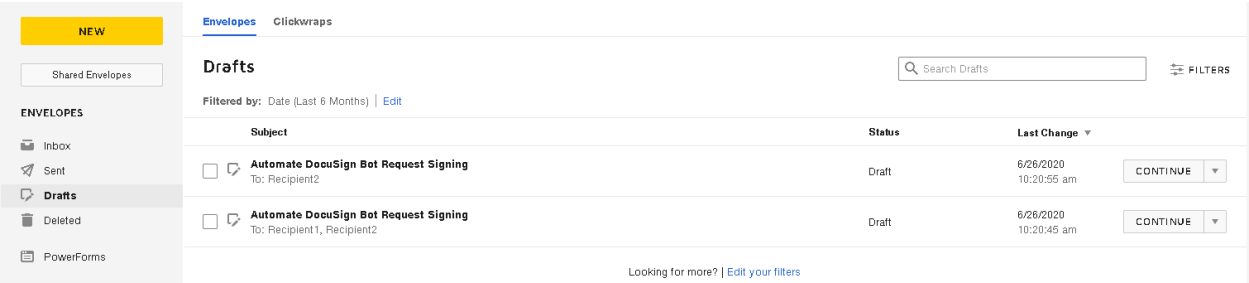
Excel の出力結果:

A	B	C	D	E
DocuSign Request Single Document Signature by Email fields				
Document Name Name and extension	**Documents Foder Path**	**Email Subject**	**Email Body Message**	**Recipients** Format: Recipient1 <Recipient1@domain.com>;Recipient2 <Recipient2@domain.com>
CSV File.csv	D:\test\DocuSign\	Automate DocuSign Bot Request Signing	Sent from Automate DocuSign Bot	Recipient1 <Recipient1@domain.com>;Recipient2 <Recipient2@domain.com>
PDF File.pdf	D:\test\DocuSign\	Automate DocuSign Bot Request Signing	Sent from Automate DocuSign Bot	Recipient1 <Recipient1@domain.com>
Word File.docx	D:\test\DocuSign\	Automate DocuSign Bot Request Signing	Sent from Automate DocuSign Bot	Recipient2 <Recipient2@domain.com>

実行結果は G 列から I 列に書き込まれ、I 列には Envelope ID、実行されたアクション、ステータスが書き込まれます。

G	H	I
Created or Sent?	**Details**	
Yes/No	**Date**	**Envelope ID / Result Message**
YES	26/06/2020 10:20:47 AM	Envelop 15271270-72c2-4130-9c61-0ad48b58353e created with status created.
YES	26/06/2020 10:20:52 AM	Envelop 713981c9-2bbe-421b-a754-28815a53459f created with status sent.
YES	26/06/2020 10:20:56 AM	Envelop 3bfd12c0-3bbe-45f4-8dea-6ae3d225b62d created with status created.

DocuSign Envelopes ビュー結果:



付録 B –ラブルシューティング

- ログ: 実行毎に、トラブルシューティングのためボットはログファイルを作成します。 ログファイルはC:\Automate\Tasks\<<TASK NAME>>に保存されます。デフォルトでは、タスク名は *DocuSign Bot - Request Single Document Signature by Email from Excel INPUT* です。

www.helpsystems.com

About HelpSystems
Organizations around the world rely on HelpSystems to make IT lives easier and keep business running smoothly. Our software and services monitor and AutoMate processes, encrypt and secure data, and provide easy access to the information people